

## 豊富町におけるメジロガモ観察記録

長谷部 真<sup>1)</sup>・富士元寿彦<sup>2)</sup>・先崎理之<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 〒098-4100 北海道天塩郡豊富町西6条6丁目 NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク

<sup>2)</sup> 〒098-3223 北海道天塩郡幌延町幌延82

<sup>3)</sup> 〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学大学院地球環境科学研究院

## Two Records of the Ferruginous Duck *Aythya nyroca* at Toyotomi, Northern Hokkaido

Makoto HASEBE<sup>1)</sup>, Toshihiko FUJIMOTO<sup>2)</sup> and Masayuki SENZAKI<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Sarobetsu Eco-Network, Nishi 6 jo 6 choume, Toyotomi, Hokkaido, 098-4100

<sup>2)</sup>82 Horonobe, Horonobe, Hokkaido, 098-3223

<sup>3)</sup>Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, Nishi 5, Kita 10, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0810

**Abstract.** We observed Ferruginous duck *Aythya nyroca* males in the marshes at Toyotomi, Northern Hokkaido in April and July, 2020. These were the first records in Northern Hokkaido, and the first summer record in Hokkaido.

メジロガモ *Aythya nyroca* は主に東ヨーロッパから、モンゴル、中国西部にかけてのユーラシア中央部で繁殖し、地中海沿岸、中東、インド亜大陸で越冬する (Reeber, 2015)。日本では全国で稀な冬鳥または迷鳥として記録があるが (渡辺・北沢, 2006; 藤巻, 2012; 日本鳥学会, 2012; 氏原・氏原, 2015)、東北地方以北では北海道の伊達市、洞爺湖町で記録があるのみで (篠原, 2009; 篠原, 2018)、北海道北部では記録がない。また、本州以南でも6~8月の観察記録は鳥取県・滋賀県・新潟県の日本海側の3例のみである (渡辺・北沢, 2006)。筆者らは2020年4月下旬に北海道北部にある天塩郡豊富町兜沼、7月下旬に同町稚咲内砂丘林の湖沼で、メジロガモを観察・撮影したのでその詳細を報告する。

2020年4月17日に兜沼公園内の人工池 (45°13'5"N, 141°41'57"E) で、著者の富士元がコガモ *Anas crecca* の約10羽の群れに混じる以下の特

徴を持つカモ科鳥類1羽を観察した (図1)。すなわち、大きさはキンクロハジロ *A. fuligula* 大で、頭部は赤褐色、頸、胸、脇はやや薄い赤褐色だった。体上面は黒褐色で下尾筒は白かった。嘴は灰色で、先端の嘴爪周辺のみが黒かった。目は虹彩が白かつ



図1. メジロガモ雄成鳥。2020年4月17日。豊富町兜沼。富士元寿彦撮影。

た。我が国で記録があるカモ科全種のうち、本個体のように頭部から脇が赤褐色で、下尾筒が白く、光彩が白い種類はメジログアモ雄だけである(氏原・氏原, 2015)。

一方で、近年国内ではメジログアモとアカハジロ *A. baeri* またはホシハジロ *A. ferina* との交雑個体が観察されている(氏原・氏原, 2015)。そこで、本個体についてもこれらの組み合わせの交雑個体の可能性がないかを検討した。まず、メジログアモとアカハジロの交雑個体雄では、メジログアモより大柄、後頭部に緑色の光沢が出る、脇の前縁部がぼんやりと白色みを帯びるといった特徴が出る(氏原・氏原, 2015)。また、メジログアモとホシハジロの交雑個体雄では、メジログアモよりやや大柄、嘴先端の黒色部が広くU字型になる、虹彩が橙色～赤みを帯びる、上面や脇に様々な程度の波状斑が見られるといった特徴が出る。(氏原・氏原, 2015)。本個体では、交雑個体で見られるこれらの形態的特徴は見られなかった。以上より、本個体をメジログアモ雄と同定した。

この個体は2020年4月17日のみ確認され、その後姿は確認されていない。観察した場所は兜沼公園にある一部にヨシ *Phragmites australis*・ガマ *Typha latifolia*・ハス *Nelumbo nucifera* が生える人工的な池で、西側以外の周囲には遊歩道がある。確認された季節は公園の開園前で、公園を訪れるのは一部の野鳥観察や自然散策目的の人に限られていた。

著者の長谷部は、2020年7月24日に稚咲内海岸砂丘林の沼(45°6'58"N, 141°37'44"E)で、キンクロハジロ *A. fuligula* 雄9羽に混じる頭部が

赤褐色、体上面が黒褐色、脇腹が薄い赤褐色、下尾筒が白く、目の光彩が白いカモ類を1羽確認した(図2)。この個体も富士元が確認した個体と同様の形態的特徴を持っており、交雑個体が示唆する特徴を持っていなかったため、メジログアモ雄と同定した。

この湖沼は、周囲を主にトドマツ *Abies sachalinensis*、ミズナラ *Quercus crispula* 等から成る森林に覆われており、岸辺はヨシが密生し、湖沼内は開放水面か主にコウホネ *Nuphar japonicum*、ヒシ *Trapa japonica* 等に覆われていた。

稚咲内海岸砂丘林の湖沼群では過去にキンクロハジロの繁殖記録があり(環境庁, 1979)、ヨーロッパではメジログアモとキンクロハジロの交雑個体も確認されている(Reeber, 2015)。このためキンクロハジロと繁殖を試みた可能性もあるが、長谷部が2020年6月23日同じ沼や6-7月に近隣の沼でキンクロハジロを確認した際にメジログアモは確認できなかった。確認した2個体が同一個体かは写真からは判定できなかった。

北海道におけるメジログアモの観察記録はこれまで2例ありいずれも北海道南部だった。本記録は3・4例目にあたり、北海道北部および東北以北の夏の観察としてそれぞれ初記録となる。

兜沼公園は探鳥地になっており、遊歩道も整備されているため夏期には愛好家による鳥類観察が頻繁に行われているが、稚咲内海岸砂丘林には遊歩道もなく、夏期のミコアイサ *Mergus albellus*・アカエリカイツブリ *Podiceps grisegena* の観察記録を除くと(長谷部・富士元, 2019; 長谷部・富士元, 2020)、近年水鳥



図2. メジログアモ雄成鳥(左)とキンクロハジロ雄(右)。2020年7月24日。豊富町。長谷部真撮影。

類の調査報告はない。稚咲内海岸砂丘林の湖沼群もサロベツ湿原の湖沼群と同様に、ガンカモ類が繁殖地だけでなく中継地としても利用していることが期待されるので、今後は春秋を含めたガンカモ類調査を進めていくことが望ましい。

本報告の稚咲内海岸砂丘林における観察記録は「ほっくー基金」の助成事業の調査時に確認されたものである。また、本報告の作成にあたり、小杉和樹氏、佐藤里恵氏には過去の観察記録の文献を確認していただいた。この場を借りてお礼を申し上げる。

### 参考文献

- 長谷部真・富士元寿彦, 2019. 北海道サロベツ稚咲内砂丘林帯湖沼群におけるミコアイサの繁殖記録と保全. *Strix*, 35: 79–86.
- 長谷部真・富士元寿彦, 2020. サロベツ湿原周辺におけるアカエリカイツブリの繁殖状況. *Strix*, 36: 25–31.
- 藤巻裕蔵, 2012. 北海道鳥類目録改訂4版. 極東鳥類研究会. 美唄. 78pp.
- 環境庁, 1979. 特定地域調査サロベツ原野. 環境庁編, 特定鳥類等調査:77–108. 環境庁. 東京.
- Reeber, S., 2015. Wildfowl of Europe, Asia and North America. Christopher Helm. London. 656 pp.
- 篠原盛雄, 2009. 伊達市長流川でのメジロガモの観察報告. 北海道野鳥だより, 157: 10.
- 篠原盛雄, 2018. メジロガモの長期滞在. 北海道野鳥だより, 193: 12.
- 氏原巨雄・氏原道昭, 2015. 決定版日本のカモ識別図鑑. 誠文堂新光社. 東京. 303pp.